

レベル：初級
領域：共通領域

平成 30 年度

一般社団法人日本臨床心理士会臨床心理講座

ネット・ギャンブル嗜癖の心理臨床

講座の内容等：ゲームから片時も離れず、登校できなくなる子どもたち、ギャンブル依存の夫に振り回される妻…。2012年に、私どもの研究チームが全国の約中高生 10 万人を対象とした調査を行い、全国の中高生にネット嗜癖の疑われる者が約 52 万人存在すると推計しました。また、2017年の全国の成人 1 万人を対象とした調査で、わが国成人のうち 320 万人がギャンブル嗜癖の疑いがあると推計されています。行動嗜癖は、私たちの身近な問題であることが認識され始めています。このような世の中の動きを受け、今年、6 月 18 日に、WHO（世界保健機関）が発表した新たな国際疾病分類（ICD-11）に、ギャンブル障害に加え、ゲーム障害が収載されました。これらの行動嗜癖の治療の有効性に関するメタ解析によると、心理的なアプローチが有効であることが示されています。今後、行動嗜癖領域の予防や介入における臨床心理士のニーズはますます増加してゆくことが予測されます。

しかし、依存はカウンセリングの対象ではない、などと言われていた時代もあり、苦手意識をもっている心理士も多いものと思います。依存の背景にあるその方の生き辛さを理解して関わる、家族全体の関係性を見ていく、グループ力動を使用した治療などなど、心理士だからこそできることは多い分野だと思います。私たち心理臨床家が、正しい知識を身につけて適切なかわりをしていくことが求められています。

本講座では、前半、ゲーム障害・ギャンブル障害に関する講義を行い、後半では、架空の事例をグループで検討することで、実際の臨床場面で臨床心理士としてどのようにケースを見立て、関わることができるか検討したいと思います。

講師：三原 聡子（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター）

日時：平成 30 年 12 月 23 日（日） 10：30～16：30

場所：文京区本郷 2-27-8 ユニゾ本郷二丁目ビル 202 号室 当会研修室

<http://www.jsccp.jp/center/access.php>

参加資格：臨床心理士・大学院生 定員 50 名

参加費： 社）日本臨床心理士会 会員	5,000 円
臨床心理士 非会員	8,000 円
大学院生（臨床心理士資格未取得に限る）	3,000 円

ポイント：2

申し込み方法：日本臨床心理士会 WEB ページよりお申込みください。

<受付手順> WEB 申込で送信してください。
↓
受付けた旨をメールで返信します。
<手順の説明>
↓
受講料のご入金
↓
「受講票」を送信します。